

ながさきドローン塾





塾長 平塚健一郎

■ 塾長コメント ■

2年目の活動始動

平成30年度長崎伝習所の塾としてスタートし、継続審査が認められ2年目の活動をスタートしました。1年目から継続した塾生が20名、新たに入られた塾生24名計44名の塾が誕生しました。塾生の中には申し込み後に亡くなられた方も1名含まれております。

今年度は「長崎市のビュースポット」に焦点をあて、ドローンで空撮し観光活用に役立てたいとの提案で開始いたしました。これは長崎市でも新たな取り組みとなりました。最終的に長崎市内にある観光スポット10か所で空撮を行い、成果品として提出させていただきました。塾生の技量もアップし、満足のできる成果品に仕上がりました。

塾は原則、継続審査を経て3年間活動ができますが、次年度につきましては2年間の塾活動のステップアップの期間とし「フォローアップ塾」として観光都市長崎市での「空撮」を実施していきます。なお、これまでの塾での活動は「NPO法人長崎ドローン情報センター」に引き継ぎ活動を行っていきます。

この2年間、大変お世話になりました。自分自身、この塾を通し学ぶべきことが多い2年間でした。

■ 塾の目的 ■

活用方法の研究

1年目の活動は長崎市においてドローンの普及啓発を行うとともに、趣味で飛行している人たちに法令やマナーなどの講習を実施していきたい。というテーマで実施してきましたが、2年目は長崎市のまちづくりにドローン活用を行いたいと視察研修や観光名所の空撮、塾生の技術向上に取り組んでいきました。

■ 塾の研究・活動内容 ■

活動内容

長崎市内にて、ドローンを安全に飛行できる場所の調査及び空撮を継続して行いました。

また、塾生の技能向上性を高めるため、伊王島体育館や廃校になった旧長崎市立高城台小学校現川分校にて練習会を実施いたしました。

5月には市全体でドローンの活用に取り組んでおられる五島市へ視察研修に行き、五島市の担当者の方との意見交換を実施。その後、クラウドファンディングを活用した高校生主催のドローンのイベントがあり、そちらに参加し交流を深めてきました。

1年目に目活動予定であった長期入院されているお子様等にドローンの楽しさを教え、少しでも気分転換になってもらいたい。との活動も2年目の今年度、長崎大学附属病院にて開催することができました。

この開催につきましては、関係者の皆様とのご協力があった実現できました。今後も継続して行っていきたいと考えております。

また、観光スポット10か所での撮影も実施でき、成果としてある程度の目標は達成されました。

■ 塾活動の成果（内容）と課題 ■

ながさきドローン塾の活動は 2 年間で終了となりますが、平成 30 年度に塾を立ち上げたときは「ドローン」という名前は知っているものの、マナーや法令などについていろいろなところで知らない人が多くいました。

何故なら・・・これまで学ぶ場所が無かったからです。

ドローンを知っていただくことで、これまで「ドローン＝危険」という固定概念から、手順やマナー、法令を遵守し飛行させることにより「安全」に飛行させることができる。との知識が長崎市内に広まってきたと感じております。

ブースを出展したり体験会を開催したりこの 2 年間、ドローンの普及に取り組んできました。その成果があって長崎市でのドローンの認知度は確実に上がっていると感じております。

では、そのドローンをまちづくりにどうやって活用するのか・・・。

ながさきドローン塾は施設での活用や観光での活用を考えました。

昨年、長崎大学病院で行ったトイドローンのイベントにつきましては、これまで“前例”が無かったため、各方面の皆様のご協力により実現ができました。

入院されている方や看護師さんから「これからも継続して実施してほしい。」「ひまわり学級で講習会を開催してほしい。」との嬉しいお話もいただきました。

また、観光面では長崎市のビュースポットの空撮を実施するにあたって、公園を管理している長崎市の担当課へ毎回、公園の使用許可申請を行っておりますが、ドローンに理解をしていただいていることもあり、許可の取

得にご指導や助言等もいただき、なんとか成果品も完成することができました。

ちなみに「ながさきドローン塾」ではこの 2 年間の活動の中で事故等はありませんでした。今後もまだまだドローンの普及が加速していくことが予想されます。

航空法も頻繁にドローンに関する改正がされております。

事故が起こるたび、規制が厳しくなってきます。ドローン进行操作する人はマナーや法令を熟知し遵守することで安全な飛行を心掛けていただきたいと切に願っております。



ながさきドローン塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
令和元年		
5月21日(火)	長崎歴史文化博物館	長崎伝習所「塾」開所式、第1回 塾会議
5月24日(金) ～27日(月)	五島市	視察研修会
6月20日(木)	長崎市ランタナ会議室	6月度月例会
6月22日(土)	長崎市伊王島体育館	練習会
7月6日(日)	長崎県出島交流会館	講演会 (講師 (株)プロダクションナップ 長征爾氏)
7月18日(木)	長崎県出島交流会館	7月度月例会
8月10日(土)	長崎市立図書館	講演会 (講師 ナレッジネットワーク(株) 森戸裕一氏)
8月22日(木)	旧長崎市立高城台小学校 現川分校	練習会
8月23日(金)	長崎県出島交流会館	8月度月例会
9月19日(木)	長崎県出島交流会館	9月度月例会
9月21日(土)	長崎市伊王島体育館	練習会
9月23日(月)	長崎市高島総合グラウンド	練習会
10月18日(金)	長崎県出島交流会館	10月度月例会
10月19日(土)	長崎市伊王島体育館	練習会
11月21日(木)	長崎県出島交流会館	11月度月例会
11月25日(月)	長崎県庁	「みんなの交流フォーラム」ドローンブース出展
11月27日(水)	長崎大学附属病院	トイドローンイベント
12月7日(土)	長崎市鍋冠山公園他	ビュースポット撮影会&講習会(講師 野田尚之氏)
12月11日(水)	長崎県出島交流会館	12月度月例会
令和2年		
1月23日(木)	長崎県出島交流会館	1月度月例会
2月9日(日)	長崎県出島交流会館	空撮講習会(講師 野田尚之氏)
2月20日(木)	長崎県出島交流会館	2月度月例会

日 時	場 所	内 容
2月23日(日)	長崎市池島他	ビュースポット撮影会
3月12日(木)	長崎県出島交流会館	3月度月例会
3月14日(土)	旧長崎市立高城台小学校 現川分校	練習会
3月20日(金)	長崎市川原大池公園他	ビュースポット撮影会

「五島市視察研修」

(5月24日～5月27日)

長崎市のまちづくりにドローンを活用したため、先進地の五島市へ視察研修に行ってきました。

五島市では専任の地域おこし協力隊を配置するなど、ドローンを担当する部署があり、積極的にドローンの活用が行われております。

24日に塾長を始めとした先遣隊が五島市の地域振興部の課長、係長、ドローン事業担当の濱本様と意見交換を行い、五島市がどのようにドローンを取り入れているのかなどを教えていただきました。この事業の成果として、人口の流出が減り、人口増に転換した事例などもお話いただきました。今後の長崎市にとっても大きな課題解決につながると感じております。

また、25日と26日には五島高校の生徒さんが主催となったイベントも開催され、そちらにも参加してきました。このイベントは漂着ごみ問題の解決のためクラウドファンディングを活用し、会場には廃校になった小学校の有効活用を行うなど、画期的なイベントでした。その他、五島市の観光スポットの空撮コンテストなども開催されました。

長崎市においても観光スポットの空撮コンテスト等、市や高校生が主体となったイベントができないか今後話し合う必要があると感じ五島市での視察研修を終えました。



「ドローンを活用したまちづくり」講演会

(8月10日)

講師 ナレッジネットワーク(株) 森戸裕一氏

平成30年度、ながさきドローン塾の活動の一環で佐賀県伊万里市を視察してきました。森戸さんは伊万里市の活性化のため、伊万里市中心部にある商店街の一室を有効活用し、ドローンの座学講習会を開催。またドローンの実技講習においては廃校になった中学校を活用した講習会等も行っているプロエキスパートです。

その森戸氏を長崎に招き一般市民を対象とした講習会を開催しました。そもそも伊万里市でドローンの活用を訴えたのが、なんと！！元伊万里市長からのご提案だったとの

■塾生の感想■

2年間の塾活動を終えて

早いもので2018年5月に始まったドローン塾での活動も2年を経過した。当初、手元にあったのは小さな5センチ四方のおもちゃのドローン。今ではそのドローンもそれなりに飛ばすことができるのだが、当時は飛び上がるとどこかに向かい（笑）追突し墜落するという繰り返し。そんなもんなのかと嘆いていたときに、このドローン塾の募集を見つけたのが2年前。今では国土交通省の包括申請をとりドローン撮影を行ったり初心者の方たちにアドヴァイスをしていることなど想像もしていなかった。塾長の平塚さんの熱意に、ほんの少し手助けができればと副塾長の任をいただいて2年間を楽しくそして有意義に過ごせたと思います。またたくさんの塾生の仲間ができ、たくさんの出会い、たくさんの経験ができたことは、この「長崎伝習所」という集まりによるもので感謝と感動です。活動を開始して2年ですが、ドローンを知ってもらう活動や初心者の方達への周知活動などは、比較的できたのではないかと思います。ただ長崎のまちに少しでも貢献できるような「まちづくりの活動」はようやく2年目の後半でスタートしたところです。まだまだこれから、正しく安全にドローンを活用していけるようフォローアップ塾としての活動も具体的な目標を見出してまた新たなリスタートを切ることもなりました。この1年、平塚塾長や共に活動してきた塾のメンバーに感謝すると共に、担当していただいた池田さんはじめ市民協働のメンバーの方々、講演を行なっていただいた有識者のみなさまや各方面で撮影許可等、お世話になった関係各所の方々に御礼申し上げます。ただひとつ残念だったのは伝習

所まつりが中止になったことですが、すこしでも早く安寧の日が訪れることを願う次第です。

（副塾長：山口 克己）

ドローンに興味があり入塾しました。基礎知識を学びながら、危険性についても詳しく教えてもらいました。

「百聞は一見に如かず」早速、トイドローン（200g未満）を購入し、自宅で操作練習を行いました。ちょっとした操作ミスで壁にぶつけて墜落させたり、操作不能な状態になったり等、小さいドローンといえども実際に操作したことで、取扱い方を間違えると人に危害を与える物体となりうることを実感するとともに、安全面の確保、マナー、法令（200g以上のドローン）等を遵守し、責任を持って取扱う必要性を学ぶことができました。

また、ドローンには多様な可能性があると思います。

「百行は一果に如かず」。ドローン事業と長崎市の産業が上手く掛け合うことで新たなシナジーを生み、より良い成果が出ることを期待します。

（宗中 健太郎）

主人に付き合わされ？て2年間、会計をやらせていただきました。会計で大変だったことは「経費として認められるか認められないか」ドキドキの連続でした。

練習会やイベント等に参加させて頂きましたが、楽しい塾活動だったと思います。この2年間のあいだに資格も取得しました。今後もNPO法人での活動や主人の仕事でドローンから離れられませんが楽しくやっていきたいと考えております。

2年間、お世話になりました。

（平塚 智美）

ながさきドローン塾との出会いは、忘れもしない1年前の浜町アーケード

仕事の途中で寄った「長崎伝習所まつり」でした。

お揃いのTシャツを着た男性陣に笑顔でエスコートされ、始めて触れた手のひら大の“トイドローン”

まるで自分が飛行しているような不思議な感覚、小さな機体に大きな夢を感じすぐさま入塾用紙を頂きました。

会の目的は、長崎市内においてドローンに関する事業を行い地域振興及びドローン普及に寄与する。

撮影以外にどういうことがドローンでできるのか、メディア等の情報しか持ち合わせていませんでしたが、実技はもちろん航空法やガイドライン、講習会や講演会を通してドローンの可能性や危険性、活躍の場の広がり学びました。

【ドローンは空飛ぶスマホ】である。ドローンは単なる空飛ぶカメラではなく、5G時代の幕開けとともに更なる位置情報の正確さで、今後は最先端の技術を機体に載せ 農業、土木、建築、災害、医療に対応していくことでしょう。

長崎市においては、坂の町にドローンハイウェイを構築し坂の町弱者の物流や医療に貢献できるのではないかと、すでに新型コロナ対策等に効果的な機能も搭載しています。

国は2022年にもドローン操縦に免許制度を導入する方針を固めたと言われています。

ながさきドローン塾の塾生は今後、長崎市でのドローンを使った産業や学びの場の中心となり、市の発展に貢献していくことができるよう学び続けることでしょう。

最後に笑顔でご指導いただいた平塚塾長、

山口副塾長、そして塾生のみなさま、1年間本当にありがとうございました。

(鴨川榮二)



「平成 30 年度長崎伝習所まつりより」

ながさきドローン塾

塾長	平塚 健一郎				
1	飯島 康夫	21	中島 るり子	41	吉持 憲治
2	井手 哲	22	中村 優次	42	
3	入江 和憲	23	野口 明子	43	
4	入江 奈緒美	24	野田 茂	44	
5	上田 晶	25	平塚 智美	45	
6	浦 忠良	26	増倉 康久	46	
7	尾田 優子	27	松尾 雅人	47	
8	上戸 好美	28	松川 勝貴	48	
9	鴨川 榮二	29	松川 義孝	49	
10	川田 一登	30	松野 健太	50	
11	北嶋 寛	31	道田 真二	51	
12	木村 幸弘	32	道田 玲子	52	
13	小戸 鶴夫	33	三原 利夫	53	
14	篠崎 幸司	34	宮本 友和	54	
15	下平 洋二	35	宗中 健太郎	55	
16	竹田 克人	36	森 達也	56	
17	谷口 晴幸	37	森川 武士	57	
18	田村 拓巳	38	山口 克己	58	
19	戸浦 善彦	39	山本 宗男	59	
20	中島 邦雄	40	吉岡 正広	事務局員	市民協働推進室 池田 睦